

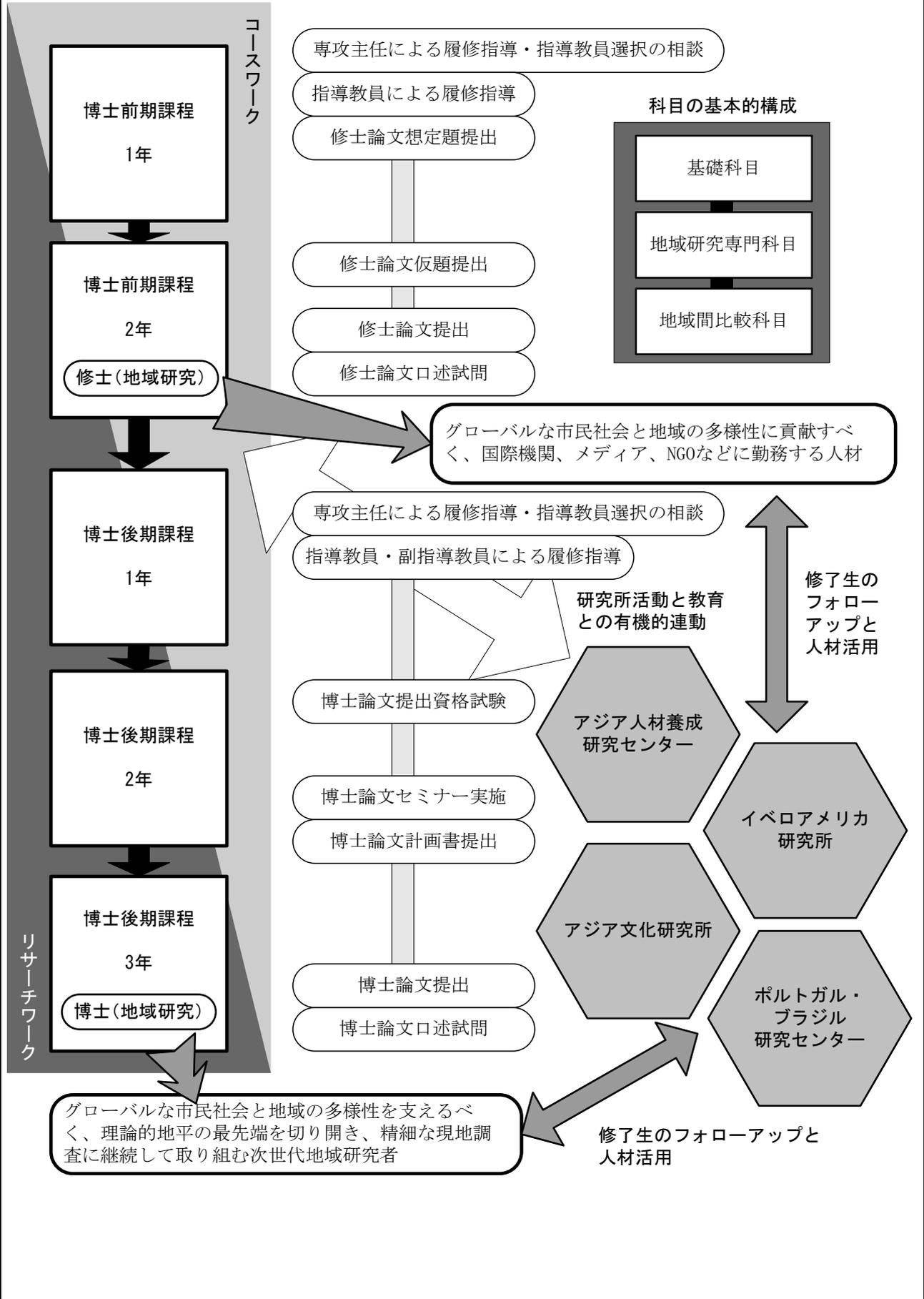
## 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	上智大学	整理番号	a028
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	現代世界に貢献する地域研究 (グローバルな市民社会とローカルの多様性を支える次世代地域研究者の育成)		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 地域研究		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (地域研究、南北アメリカ、東南アジア、南アジア、西アジア)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名)	研究科長(取組代表者)の氏名 寺田 勇文	
	外国語学研究科地域研究専攻〔博士前期・後期課程〕		
(その他関連する研究科・専攻名)			
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>キリスト教ヒューマニズムを基軸とする建学の精神を生かし、<b>高い国際性</b>を誇る外国語学部の語学教育と地域研究の伝統の上立つ外国語学研究科地域研究専攻は、まさに本学大学院の教育研究活動の中核をなすものと位置づけられる。本学の地域研究は、<b>イエズス会ネットワーク</b>のアジア拠点としての活動を体現する東南アジア、南アジア、中東の研究と、今日にいたるまで日本のラテンアメリカ研究をリードしてきた実績の複合からなる。これらの伝統を生かし、本学は平成18年度に外国語学研究科を構成する地域研究、国際関係論、比較文化の3専攻を、<b>グローバル・スタディーズ研究科</b>として改組すべく届出中であり、新たな研究の形をグローバル社会専攻地域立脚型グローバル・スタディーズ・コースとして確立することを企図すると同時に、国内外の他大学と異なり、<b>グローバル・スタディーズに地域立脚性を保証</b>するという新しい目的設定を行って、地域研究専攻を従来以上に全面的に支援することとして、これを創立100年(平成25年)に向けた<b>教育・研究・キャンパス再興グランドレイアウト</b>の中心事業の一つと位置づける。</p>			

機 関 名	上智大学	整理番号	a028
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>従来の国際関係論専攻の教員のうち、とくに地域に密着した現地調査を研究基盤とする教員を中心に1997年に開設した地域研究専攻は、今日的な課題に対応しつつ理論的にも洗練された地域研究の教育研究に向け、国内外の学術環境の変化にも対応しつつ、活発な活動を展開してきた。カンボジア王国シェムリアップ市に大学が有する常設の施設(アンコール研修所、現在の<b>アジア人材養成研究センター</b>)を利用した教育・研究の他、東南アジア、南アジア、中東、ラテンアメリカの4地域をそれぞれ対象とし、指導教員との密接な関係の下に展開される演習科目を軸として、アジア文化研究所などの学内各研究所、外国語学部スペイン語学科、ポルトガル語学科などの学部学科の活動とも緊密に連携してきた。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>地域の固有性を総合的に明らかにしようとする従来の地域研究をさらに進めて、地域に関する深く広範な知識を背景としつつも、世界大で進む新しい変化の波のなかにあって、その地域が世界に今日占めている位置を明らかにし、各地域が抱える様々な問題の解決が、持続可能な発展や世界大の公共圏の形成といった、より普遍的な<b>現代世界の課題</b>に取り組む活動の一環として構想される地域研究を推進する。</p> <p>急速に変わりゆく世界の状況に対応し、また学術環境の変化に即応しつつも、これまでの特色を生かし、<b>①人文社会科学</b>を中心として、<b>②精細な現地調査</b>に基づき、<b>③歴史学の知見</b>を生かして現代理解に特化しない、より視野の大きい地域研究の堅持と推進を目指す。加えて、<b>④貧困、開発、人間の安全保障、人の移動とアイデンティティ複合、ジェンダー、都市化、文化遺産など、実際の課題解決</b>への志向を強化し、<b>⑤国際的ネットワーク</b>をさらに拡張して、これを教育に生かすべく努力する。とくに、従来の研究者の往来や学生の諸外国への派遣、留学生の受け入れを継続拡張するだけでなく、現在の<b>情報技術</b>の発展を生かして、国際的な交流をより恒常的で日常的なものに高め、現地調査における指導をさらにきめ細かいものに高める。また、地域に根ざした地域研究の専門家を養成することを本義としつつも、平成18年度にグローバル・スタディーズ研究科の一専攻となることに対応し、社会学、人類学、歴史学などの理論、方法論面での指導を強化し、研究科全体としての人材の養成、研究の発展についても十分に配慮することとする。とりわけ、時代の要請からして、博士後期課程における研究者養成と同等以上に、<b>⑥博士前期課程における専門教育を重視</b>し、実践的な地域研究の裾野を広げて、国際機関、メディア、NGOなどに有為の人材を供給する。</p>			

10. 履修プロセスの概念図



機 関 名	上智大学	整理番号	a028
<p data-bbox="165 199 588 232">&lt; 審査結果の概要及び採択理由 &gt;</p> <p data-bbox="165 295 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1430 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 902">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 965 633 996">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 1012 1430 1189" style="list-style-type: none"> <li>・「地域に立脚したグローバルスタディーズ」という目的が明確化されており、「アジア人材養成センター」の活用や、フィールドワーク遂行のための言語運用能力の涵養などの取組を通じ、具体的な成果を上げることが期待できる。また、遠隔地テレビ会議システムの構築も、地域研究の人材養成には必要な試みと言える。</li> </ul>			